

【試合結果】

第33回北海道中学校バスケットボール新人大会

男子 決勝トーナメント		決勝	
日時	平成30年12月24日 (月)	13:00 ~	
会場	江別市民体育館		
結果	<p>札幌厚別北中 札幌</p> <p>48</p>	<p>13 - 13 9 - 11 9 - 18 17 - 8 OT</p>	<p>札幌真栄中 札幌</p> <p>50</p>
審判	主審 浜本 伸	副審 山室 洋平	



【ボックススコア】

札幌厚別北中		札幌						
No.	選手氏名	出場	得点	3P	2P	FT	R	F
4	千葉 遥仁	×	10	2	2		3	5
5	齋藤 瑛人	×	5		2	1		
6	館山 由青	×	23		9	5	21	4
7	原中 大和	×	2		1		1	
8	大久 衝	/	0				2	
9	伊藤 仁	/	0				1	
10	佐藤 宙彦	/	0				1	1
11	瀬尾 琉星	×	8		3	2	8	4
12	榊原 瑛人	DNP	0					
13	横内 彰栄	DNP	0					
14	山田 陸斗	DNP	0					
15	永井 拓心	DNP	0					
16	森谷 伍	DNP	0					
17	西村 洸人	DNP	0					
18	中川 拓海	DNP	0					
HC	篠原 正和							
合計			48	2	17	8	37	14

札幌真栄中		札幌						
No.	選手氏名	出場	得点	3P	2P	FT	R	F
4	篠原 壘	×	22		10	2	7	3
5	大井 理生	×	18	3	3	3	14	3
6	川尻 達也	×	0				2	
7	鈴木 温大	×	8		4		10	1
8	齋藤 真夢	×	2		1		3	1
9	若崎 勇智	DNP	0					
10	阿波 大希	DNP	0					
11	花房 零哉	DNP	0					
12	菅野 光希	DNP	0					
13	花野 優太	DNP	0					
14	下村 颯音	DNP	0					
15	中田 陸生	DNP	0					
16	0	DNP	0					
17		DNP	0					
18	0	DNP	0					
HC	太田 祥史							
合計			50	3	18	5	36	8

出場 ×:スターター /:途中出場 DNP:出場なし
 得点 3P:3ポイントシュート 2P:2ポイントシュート FT:フリースロー

【戦評】

南北海道大会男子決勝
 スターティングメンバー厚別北#4.5.6.7.11 真栄#4.5.6.7.8

1Q:両チームハーフコートマンツーマンでスタート。厚別北は#6.11のインサイドを中心にオフェンスを展開。一方、真栄はディフェンスから速攻で流れをつかもうとする。真栄は早い展開から#4.7が得点し、先に流れをつかむ。厚別北は早めにタイムアウトを取り、ゲームを落ち着かせる。タイムアウト明けは厚別北#6がリバウンド・ポストプレーと存在感を発揮。しかし、真栄#4のキレのあるドライブや#5の3Pで次々と加点。残り4分で5-11とする。追いつきたい厚別北は#4の連続3Pや#6の力強いレイアップで加点し、残り1分で13-13の同点に。互いに持ち味を出し合った1Qは同点のまま終える。

2Q:引き続き速い展開に持ち込みたい真栄はディフェンスのプレッシャーを強める。しかし厚別北#6.11にオフェンスリバウンドを許し、徐々に厚別北がペースをつかみ始める。しかし、#6が残り1分で2回目のファールにより交代。さらには#11も3回.4回と連続してファールしてしまう。流れをつかみたい真栄は、粘り強いパス回しから、#5の3Pが決まり、22-24で前半を終える。

3Q:厚別北は真栄#4へのプレッシャーを強めて、簡単にボールを持たせない。ディフェンスとリバウンドから自分たちの得意な展開に持ち込みようとする。対する真栄はミスマッチから#7のポストプレーや#5のフリースローで加点。残り4分で28-31。さらに#4の速攻やドライブ、#5の3Pが決まり30-38とリードを広げる。追いつきたい厚別北だが、#6が痛恨の4ファールで交代を余儀なくされる。その間に#5が連続でオフェンスリバウンドから加点。最後に流れをつかんだ真栄がリードを広げ、31-42で4Qへ。

4Q:一気に流れをつかみたい厚別北は4ファールの#6.11をコートに送り込む。両チーム約2分間無得点でゲームが展開するが、真栄は#7が、厚別北は#6がそれぞれ得点。どちらも厳しいディフェンスで簡単に得点を許さない。一進一退の展開を打ち破ったのは厚別北。#4のジャンプシュート、#11のステップインシュート、#6のフリースローで加点し、3分を残して41-46と追い上げる。さらに#11がバスケットカウントを決める。この3Pプレーで点差は2点に。真栄も#4のジャンプシュートで反撃するも単発で終わってしまう。相手のミスを誘う巧みなディフェンスから厚別北#4.7が得点し、ついに48-48の同点へ。残り30秒、真栄#7が粘り強いシュートを決めて48-50としたところで厚別北がタイムアウト。真栄はタイムアウト明けのセットプレーを気持ちで守りきり、2点差を保ったまま優勝を決める。

互いの持ち味が十分に発揮され、緊迫感のある素晴らしい決勝戦を展開した両校の健闘を讃えたい。